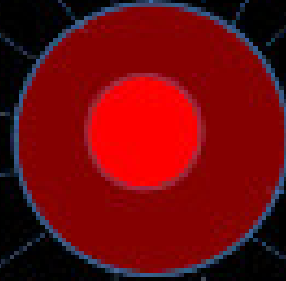


ひかりがまなるよりいかに
はやくいかに

ひかりがまなる。



ヒューマン

目次

ひかりがあるところにはジュウリョクがある。

エイゾウ

はじめに

はじめは、ニチジョウテキなことをかいていたが、いまや、エルガク（ブツリガクっぽい）のはなしがおおい。かきはじめてゴネンでそういうヘンカとあいなった。わたしは、コウコウでリケイにすすんだわけではないが（ケイサンがおそかった。）、かんがえかたは、リケイにちかいかもしれない。あまりチシキがないから、ジュウにかんがえられている。それもよかったとおもう。

つぎからは、（あまりにセンモンテキになるので、）わけてかこうかとおもうが、そんなにたくさんかけるかというモンダイがある。リケイのジブンも、ブンケイのジブンも、まぎれもなくジブンである。それなら、ベツにわけるヒツヨウはないかもしれない。なやましいが、いまのところそうおもっている。また、ベツに、エルガクのホンとケイザイガクのホンをだすつもりである。なにかいいドクショタイケンをなさっていただければさいわいである。

ニセンジュウキュウネンジュウニガツニジュウニ

チ

ニ

「タイム イズマネー。」という。ジカンはおかねのようだ。ということだ。わたしにとっても、そうかもしれない。ジュウブンにケントウしてから、なにかをはじめてもいいが、「おもいたったら、キチジツ。」ともいう。そういうキカイがあるときには、ほとんどケントウせずに、はじめたりする。たとえば、ほしいものがななわりびきでうっていたとする。ジュウブンケントウをすれば、まちがいはないだろうが、タブン、そのケツカがでるまえに、うりきれてしまうだろう。だから、ジュウブンにケントウするのは、ただしくないこともある。

ただ、ジョウホウはダイジである。あるケツテイをするとする。ジョウホウがあれば、そのケツテイをたすける。また、ヨソクされたジョウホウがあれば、ケツテイまでのヨユウができる。なにもジョウホウがないと、ウオウサオウするようだが、ジョウホウがあ

れば、おちついてハンダンができる。

そういうイミで、ジョウホウは、ヨユウをつくるものだともいえそうだ。「ヨユウ」ということは、「タイム」とおなじようなものである。「タイム」イズ「マネー」だから、おかねがかかるといふことでもある。

サン

なにかにひかりがあたると、なにかがみえる。それがみどりいろをしていると、みることができ。しかし、ひかりがあたらないと、みえない。よるをしっているひとなら、わかるだろう。しかし、そのものがひかるとはあまりいわれない。ジュースのカンに、ひかりをあてたら、ジュースのカンがきいろくひかったとは、あまりいわない。

もしかしたら、ひかりというデンキみたいなものがあたって、きいろいジュースのカンがひかったカノウセイがある。セイカツばめんでは、どちらでもよいだろうが、ガクモンとしては、このサはあるとおもわれる。

くろいものは、ひからない。つまり、このいろは、ひかりをあてても、ひかるハンノウをしない。だとしたら、くろいものは、ひかりのエネルギーをためられるかもしれない。ばあいによっては、ハッカするという。「ブラックホール」もやはり、そのうちハッカするのではないか。それなら、くろいものを、ひかりをためるのにつかえるのではとおもう。

よん

ギターずきのエークンがいたとする。このひとは、ショウライテキになにかをかうであろうか。ゲンとかピックがうれそうだ。エレキギターだったら、アンプもかうかもしれない。このように、ショウヒには、ドウセンがある。つまり、シュミから、ものへというつながりである。わたしはちいさいころ、めぐまれていたので、マンガとか、テレビゲームとか、ガッキとか、オンガクソフトというシュミがあった。しかし、かうばかりでは、おかねがへるイッポウである。テレビゲームはやらなくなったが、シィディはかったりする。マンガは、マンガでなくて、ホンをかうようになった。ガッキもかうことがある。こういったシュミにおかねをつかうから、おかねがたまらない。もうすこし、シュミをけずるといいかもしれないが、いまのところできていない。こういうシュミだから、まちにでて、ホンヤにいたり、シィディヤにいたり、ガッキヤにいたりする。しかし、サイキンはあまりいかなかった。コンピューターネットワークハンバイがあるからである。そういうイミでは、フツウのみせは、ケイエイテキにきびしいのではとおもう。

ゴ

ガッキのエンソウカをイチニチやとうと、ナンマンエンかはかかるだろう。そのひとは、

ガッキにゴジュウマンエンぐらいかけているかもしれない。しかし、いまでは、ガッキをひいたおとをうっているので、ニマンエンあれば、そこそこのおとがならせる。つまり、ニマンエンぐらいでガッキのギジテキなエンソウカをやとえてしまうわけだ。

しかも、ニジカンだけではなく、ムセイゲンだ。オーケストラもイチニチやとったら、ヒャクマンエンはするだろうが、ヒャクマンエンあれば、やはり、オーケストのおとをあつめたソフトウェアがかえる。

そういうイミで、ガッキのエンソウカにはきびしいジダイかもしれない。オンガクガッコウにいて、ゴヒャクマンエンぐらいかけて、ガッキにヒャクマンエンかけたとしても、ニマンエンのおととショウブしなくてははいけない。サンビャクバイすぐれていなければならないとなる。もしくは、サンビャクカイしごとをするようだ。それはむずかしいだろう。だから、エンソウカをめざすひとは、へっていきそうだとえるだろう。

ロク

ニホンにはかつて、コウドケイザイセイチョウキがあった。しかし、キュウジュウネンダイからは、レイセイチョウ、ないしは、テイセイチョウである。イッタイ、そのジキといまとでなにがちがうのか。

ひとつは、「ショク」がゆたかになったといえるだろう。わたしはこどものころ、キュウリをはさんだサンドイッチをたべたし、かっぱまきもたべた。パンをたべるにしたって、バターではなく、マーガリンだ。ジュースには、スウジュッパーセントのカジュウとサトウとチャクショクリョウがはいっていた。それが、ナンマイものハムがはさまったサンドイッチ、テッカマキ、バター、ホンモノのジュースとかわってきている。

わたしのばあいが、それだけショクがゆたかになった。ただそのブン、チョキンがむずかしくなるだろう。コウツウにしたって、いまはくるまをかうひとがおおいだろう。しかし、わたしのおやじだって、くるまは、かりるか、チュウコシャにのっていた。

わたしのおやじはカイガイテンキンもしたサラリーマンである。そのおやじがシンシャをかわなかったということは、テイセイチョウジダイのサラリーマンが、シンシャをかえるというのにギモンをもつリユウにもなる。ホンライテキには、くるまはそうそうにかえないはずなのだ。

セイフは、ことあるごとにケイキタイサクをする。また、コクサイもハッコウする。そのしはらいは、ジュウネンゴとかニジュウネンゴである。だから、ジュウネンゴ、ニジュウネンゴには、ニホンジンハピンボウになる。かりかえれば、やっぱりナンジュウネンゴに、しはらいをさきのばしになる。ようするに、なぜ、いま、ニホンジンがくるまをかえるかという、そのしはらいがエンキされているからだともいえよう（イチオウかっただろうが。）。

それだと、ナンネンゴかに、つけがのこる。すくなくとも、くるまのダイキンブン、ショウライつかえるおかねがへるだろう。つけをさきおくりにするということは、ショウライまずしくなるわけだから、そのブンチョキンがヒツヨウだろう。だから、チョキンをしたホウがいい。それはカクジツなのだ。いま、たのしむか、あとでクロウをしないか

のセンタクだろう。

「バブル」は、カコのことのようにおもわれがちだが、まだバブルをやっているようにもおもう。コンドはギンコウでなく、コジンがこまる。ななジュウネンダイくらいのセイカツスイジュンだったら、ケイザイはイジできるとシサンした。いまのレベルはそうつづかないだろう。もっとタンジュンにいうと、えどジダイのセイカツをならえばいいだろう。

シチ

「ひかり」がひかるのか、「もの」がひかるのかというモンダイがある（●サン）。しろいおきものにひかりがあたると、しろくみえる。これはすでにわかっていることである。また、くらいところで、しろいおきものをみても、すがたはとらえられない。フツウはひかりが、しろいおきものをてらしているようにおもわれているだろうが、わたしは、ひかりというデンキのようなものが、おきものにあって、しろくハッコウしているとかんがえる。つまり、おきものは、てらされているわけではなく、ひかっているわけだ。ひかりは、ひかっているというイミがあるだろうから、タイヨウからでたそれは、「ひかり」というより、「ひから（せている）」である。それでも、ひかりは、ひかっているというかもしれない。プリズムをとおすと、いろんないろがみえる。だから、ひかりはひかっているんだ。というかもしれない。しかし、それは、プリズムがあつてのいろである。テレビだっているいろんないろがでる。タブン、くろいいたに、いろんないろをうつしだすことがカノウなのではないか。「ひから」シダイでうつるいろがかわるとおもわれる。

ハチ

なにかのオンドをひくくすると、コタイになる。ギャクに、たかくすると、エキタイからキタイになる。ウチュウがひろがっているというのは、オンドがたかければ、キタイがおおくできて、ポウチョウする。それでも、ポウチョウのゲンカイはあるだろう。また、オンドがひくいところもあるだろうから、エキタイやコタイもあるはずである。わたしは、ウチュウは、おおきなチキユウみたいなものだとかんがえている（●『ウ』ヒャクななジュウニ、『ウ』ヒャクよんジュウ、『ウ』サンジュウハチ、『ウ』ニジュウイチ、『ウ』よん、『ス』ヒャクサンジュウロク、『ス』ヒャクニジュウロク、『ス』ゴジュウキユウ）。あとニヒャクネンはやければ、おおがねもちになったかもしれない。なんのことが。ウチュウのそとのホウにはネンリョウがありそうなのである。チキユウでは、それをそとがわからほってカクニンされている。セキユである。まあ、チャレンジャーだからしかたがない。

キユウ

ときおり、わたしはジカンリョコウのはなしをしている（●『ウンドウはすべてエレクトリック』[イカ、『ウ』] ヒャクニジュウなな、ヒャクよん、ロクジュウハチ、『スーペリアーをみつけた。』[イカ、『ス』] よんジュウニ、よんジュウイチ、ジュウキュウ、『オンガイイチエンのジダイ』[イカ、『オ』] ゴ、『よろこぶゲンシジン』[イカ、『よ』] ニジュウイチ)。それだと、ダイタイカコにそこにいたというザヒョウにもどれば、「ジカンリョコウ」ではないかということだ。

しかし、コンカイはホントウのジカンリョコウができるかもしれない。いや、ジカンリョコウというか、デジェネレーション（タイホ）である。それは、どうやればできるか。エル（ウンドウ）イコール ダブリュエー（あたたかさ）わるダブリュ（シツリョウ）である（●『ウ』ヒャクニジュウキュウ、『よ』サンジュウニ、ニジュウハチ）。このダブリュエーをソウサする。つまり、ジカンをもどしたいブンをひやすのである。

チキュウをひやしてもいいし、ウチュウゼンタイをひやしてもいい。シキでは、ダブリュエーがマイナスになる。したがって、ウンドウもマイナスになる。エルイコールティ（ジカン）（●『ウ』よんジュウ、『よ』サンジュウニ）だから、ジカンがギャクにながれることになる。ウンドウのむきが変わるというわけだ。しかし、それをやってもおもしろくないだろう。たまに、ドウブツなどをこおらせてホカンするというはなしがある。そこからソセイさせるのはむずかしいらしいが、まあ、そういうはなしである。

ジュウ

よっつのコウセイにトウカンカクでかこまれたほしは、インリョクがつりあってうごかない。これをわたしは、「デッドロック」とよんでいる（●『ウ』ロクジュウキュウ、『ス』ヒャクなな、『ス』ヒャクよん、『ス』ニジュウ）。まわりのコウセイのインリョクがつりあっているから、ジー（ジュウリョク）がレイのようになる。カンゼンなレイではないが、それを、「アクティブレイ」といおう。

とにかくレイっぽい。アンガイウチュウのなかのコウセイなり、ギンガのハイチはそうやって、うまくつりあってハイチされているのかもしれない。セイテキハイチである。もし、そういうつりあいが、まだとれていないとしたら、うごきがさかんはずである。ニンゲンもレキシのなかで、ハイチをそれぞれがまのあるようにしてきた。そういったアクティブレイのハイチのウチュウかもしれない。

ジュウイチ

ニホンはジシンのおおいくにである。ハチネンまえのトウホクのジシンのときには、キンキュウジョウホウがわたしのケイタイデンワにはいった。それもフダンとはちがうケイコクオンつきでだ。

うちはチメイテキなソンショウはなかったが、かべにひびがはいったり、タイルがわれたりした。それからというもの、そのキンキュウジョウホウのおとがこわくなった。シ

ンリガクでいう、ジョウケンづけである。ビーというサインあって、いやなエーがハッ
セイするばあいは、ビーがこわくなるというはなしだ。

まあ、それはともかく、ジシンというのは、チカクのウンドウといわれている。つまり、
エル（ウンドウ）であるわけだ。エルイコールイー（デンキ）である（●『ウ』よんジュ
ウゴ）。そのために、チカクのデンキをとらえられれば、ジシンはヨソクカノウとなる。
デンキなまずがヨチできるという。やっぱりこれも、デンキである。そのギジュツをた
かめたら、ヒガイはへるとおもう。もっとダイタンにやれば、ゆれがおこるといハド
ウのギャクにそれとドウヨウのおおきさのハドウをおこして、ジシンをうちけすという
ホウホウもあろう。ジシンはシンゲンからエンジョウにそとへむかってひろがるようだ。
これは、いけにいしをなげこんで、ハモンがひろがるのににている。このハモンをとめ
るのはむずかしいというか。タブン、ギャクにかわらからいしをとりだせば、ギャクホ
ウコウのハモンができるだろう。それはどういうことかという、ジシンをチュウワす
るのは、リロンテキにはカノウということである。ただ、シンゲンから、なにかおおき
いものを取りだすのは、ギジュツテキにむずかしい。そういうカダイはある。

ジュウニ

テレビキョクのうりあげがおちたなどということがあ。テレビのキカイはニホンジン
のいえにダイタイおかれているだろうが、ホウソウをみるひともいれば、みないひとも
いる。

わたしもニュースとサッカーぐらいしかみない。そんなかんじだから、ガメンがおおき
いホウがいいとおもわず、キョクリョクちいさいホウがいいとおもっている。キュウジュ
ウネンダイからパソコンがフキュウしはじめ、オンガクやドウガがみれるようになった。
そのため、テレビよりも、パソコンでドウガをみるひともおおいだろうとおもう。サイ
キンでは、ケイタイデンワでみることもできるらしい。

もし、そうだとすると、テレビキョクのうりあげがおちることは、わからなくない。ド
ウガトウコウサイトにも、テレビとおなじようにコウコクがはいる。そういうわけで、
キョウソウになっているといえるだろう。このキョウソウはどっちがかちそうなのか。

ハードウェアをくらべてみれば、テレビキョクが、ナンジュウ、ナンビャクオクとする
たてものをホユウし、ナンゼンニンもやとっているのにくらべ、ドウガトウコウサイト
は、スウカシヨに、サーバーとなるコンピューターとオペレーターをもっているだけだ
ろう。つまり、ヒヨウが、ドウガトウコウサイトのホウがアットウテキにすくないだ
らう。これでキョウソウをつづければ、いまのところ、ゴブゴブだとしても、シュウエ
キで、ドウガトウコウサイトにグンバイがあがる。

もし、かぶぬしのリエキをサイダイゲンにかんがえるとするなら、ドウガトウコウサ
イトのホウがこのまれるだろう。しかし、コウキョウセイというかんがえかたもある。そ
れをふくめて、テレビキョクがどれだけがんばれるかではないだろうか。タクサンセン
タクシがあったホウが、シチヨウシャはゆたかだが、テレビキョクは「コウキョウセイ」
をおもんじるにせよ、フクシでやっているわけではない。シュウエキがでなくなれば、

テッターということもかんがえられる。

ヒヨウをへらすドリョクがツツウのカイケツサクかとおもうが、ニホンでは、なかなかやりづらいただろう。だから、いつまでもつのかというところではないだろうか。

ジュウサン

ニホンジンは、ヤクハチジュウネンまえのセンソウのヒガイをたてなおすために、センゴ、トクにはたらいたという。わたしのおやじもそのひとりである。センチュウ、センゴに、あまりよいたべものがなかったとき。たまに、「ハングリーにはたらいた。」などという。まあ、そうだったんだらう。ケッカ、ケイザイセイチョウもキロクされている。バブルとよばれるハチジュウネンダイからキュウジュウネンダイシヨトウにいたるまで、それはつづいた。

バブルのころから、フランスリョウリだの、イタリアリョウリだの、そういうのをたべるようなひとがでてきたという。わたしもどちらかというとなべたほうだ。わたしのおふくろがつくるリョウリは、わたしがおさないころから、そうかわっていないが、わたしのいえのちかくにインシヨクテンがサンケンふえた。それだけシヨクヒにおかねをかけるようになったということだろう。その、「ハングリー」がつづいたのは、ハチジュウネンダイまでなんだらうか。シヨクがよくなって、キュウジュウネンダイにほぼセイチョウなしになっていまにいたる。

シヨクたりて、ケイザイセイチョウなしと、まあ、ヘイワなようだが、コクサイキョウソウなどをかんがえると、それでいいのだからとおもう。センゴは、ほぼひとしく「ハングリー」だったが、いまは、「ハングリー」なひとといえば、もっとたべるというひともあるだろう。ヨウするに、「コセイ」だのとイチジキいわれたが、コジンセンなのだ。がんばりたいひとは、がんばるし、がんばらないひとは、がんばらない。そういうジダイなのだとおもう。

いまは、こどももすくなくなつて、ひとりでしんでいくひとでもでてくる。だから、ヒヤクネンゴのためにがんばろうというのは、キョウツウのモクヒョウとしてはむずかしい。がんばるひとも、キョウソウからおりるひとも、まあまあうまくいけばいいとおもう。

ジュウよん

もっているゆめをジツゲンするために、アルバイトをしてシホンキンをためて、しごとをやりだすというはなしは、わたしがジュウダイのころにきいていた。しかし、わたしのカンシンがあったロックオンガクのばあい、アルバイトして、シホンキンをためて、しごと、エンソウをしたというはなしはきかなかった。そうやって、まじめにミュージシャンになったひともあるだろうが、そういうはなしはしらなかった。どちらかといえば、のみあるいているみたいにおもっていた。

しかし、それはおおまちがいただろう。タブン、ヒツヨウなドウグであるガッキがコウガ

クなために、なかなかシホンキンをためられなかったのだろう。チホウをまわるとなれば、くるまもヒツヨウだ。エンソウするバショ「ライブハウス」も、キャクがすくなければ、ミュージシャンのフタンとなる。そうやって、あげてみると、ミュージシャンとして、セイコウなり、しごととしてセイリツするようになるのはむずかしいとわかる。わたしは、イジョウのことをリカイしていなかったが、オンガクがすきだった。しかし、つきあいだなんだで、なかなかジブンでキョクをつくることができなかった。それで、イチジキオンガクをチュウダンした。そして、いまごろになって、またオンガクをやっている。

やってみるとわかるが、わたしのつくるロックオンガクは、そううれるほどではないし、ロックオンにサンカゲツかかるし、つかれる。だから、いま、それはあまりつくろうとしていない。かせげないしごとイコールただしくない。とかんがえるのだったら、すぐにやめたホウがいいだろう。なにしろ、ジュウゴキョクきかせて、イチエンをもらうジダイだ（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）。だから、イチジカンのあいだにジュッキョクつくれると、シュウエキがでるかもしれないが、まず、そういうことはできない。

まあ、やってみて、そういうジョウキョウがわかったから、そんなにちからをいれていない。シュミとしてできればいいのではとおもう。ただ、このさきのニホンにおとずれるであろう、ただばたらきのジダイ（●『ウ』ゴジュウなな）をかんがえると、どうなのかとおもう。

でも、ガッキをかっているようじゃだめだろう。いまおもうと、コウコウのときに（オンガクをやるモクテキだとしても）、アルバイトして（おかねをためて、）ばあいによっては、センモンガッコウ、ダイガクにいけばよかったとおもう。おかねはつかいみちをかえられるからだ。

ジュウゴ

わたしは、わたしのギジュツリョクがヨーロッパにくらべて、ニヒャクネンおくれているとおもっている（●『ス』ヒャクサン）。まえにもいったように、ニヒャクネンはやかかったら、セキユをほりあてて、おおがねもちになっていただろう（●ハチ、『ウ』ヒャクよんジュウ）。

そのおくれを、ニバイのはやさでおいかけると、ゲンジョウのスイジュンまでヒャクネン。それからのシンポに、ゴジュウネン、ニジュウゴネン、ジュウニテンゴネンとかかり、ケッキョク、おいつくまでにニヒャクネンかかる。

このダンダンハンブンにしてケイサンするところがおもしろい。イッキにニヒャクネンかかることをいえるひともいるだろうが、ジュンジョをおってケイサンするとそうなる。これは、シャッキンのケイサンにもつかえとおもう。

ニヒャクマンエンかりて、ニバイのはやさでかえしたら、などである。ニバイのはやさなら、キンリがとてつもなくたかくなければ、かえせるだろう。ところが、ニブンのイチのはやさだと、さきのようにケイサンして、キンリがないとしても、ようやくかえせるとなる（ヒャク、ゴジュウ、ニジュウゴ、ジュウニテンゴと。）。

なぜ、そのようにケイサンするか。それは、つぎのシュンカンに、べつのものおかねをつかっているカノウセイがあるからだ。だから、これがめやすとなる。つまり、たかいものをかうとしても、キュウリヨウのニバイにおさえなさいだ。だから、そうカンタンにくるまはかかえない。かうのだったら、チョキンをするようだろう。

これをまもらずに、キュウリヨウのサンバイのものをかうと、そのケイサンでは、ロクジュウロクパーセントしかかえせない。つまりハタンだ。だから、それをしてはいけない。しかし、ニバイだとしても、マイカイにそれをする、やはりハタンする。だから、シュッピのルイケイをキュウリヨウのニバイにおさめるといいだろう。また、キュウリヨウのイチバイに、レイテンゴバイにおさめれば、チョキンもできるであろう。

ジュウロク

ニホンでは、よくくるまがみられる。それだけうれたということだ。しかし、それをもとがとれるくらいつかっているだろうか。ニハクマンエンのくるまがあるとする。これに、ネンリヨウをおなじニハクマンエンブンかえば、イチマンサンゼンリットルになる。イチリットルでサンジュッキロはしるとすると、ヨンジュウマンキロメートルはしることになる。

ただ、ヨンジュウマンキロメートルはしらせるひとはすくないだろう。つまり、このキジュンでいえば、くるまをかうひとはダイタイソンをしているといえそう。ようするに、くるまはショウヒザイということだ。イッシュヨウかけてのるのが、ケイザイテキといえるだろう。

ジュウシチ

ものをつくるのに、セツケイをすることがある。タブン、いまではセツケイズをかいてから、つくりはじめることがおいだろう。タブン、セツケイズは、エンキンホウをつかってかくと、ゼンタイがわかりやすいだろう。しかし、セツケイズのないセイヒンもある。

それは、たとえば、トウゲイセイヒンである。ホンタイをつくって、えをいれる。そういうセイヒンもある。これを、セツケイズのないセイヒンとよぼう。こういったセイヒンはショクニンがつくっている。いまのフツウのひとはセツケイズをかいてから、セイヒンをつくるだろうが、ショクニンは、セツケイズをかかずにセイヒンをつくる。こういうちがいはあるとおもう。

ジュウハチ

フツウのくには、ダイタイゼイキンをとる。ホウジンゼイやショトクゼイなどである。

しかし、くにがセイヒンをつくるカイシャのようだったらどうか。むしろ、うりあげから、ジュウギョウインにキュウリヨウをはらうようだろう。ゼイキンのようなものはいらない。

くにがつくえをニコつくって、エーさんとビーさんにそれぞれゴヒャクドルでうったら、くににセンドルはいる。くにがニヒャクドルぬいて、それをつくったエーさんとビーさんに、よんヒャクドルずつしはらわれれば、まあまあうまくいっていることになる。

しかし、くにのカンリコストのニヒャクドルがつかわれれば、エーさんとビーさんがヒャクドルずつまずくなる。ただ、くににあるニヒャクドルがうまくつかわれれば、イチジテキに、エーさんとビーさんがまずしくなっただけで、ケイザイはまわる。くにがそのかねで、シーさんにニヒャクドルはらってヤサイをつくらせれば、またヒャクログジュウドルをシーさんにはらってケイザイはまわる。

このレイでも、やはり、くにがゼイキンをとっているといえるだろうか。ニジュッパーセントをくにがあずかる。ほとんどジンケンヒだろうが、ゼイキンとよべなくもない。これで、うまくひとびとのほしいものと、つくるもののチョウセイができれば、これはカノウだろう。

ジュウキュウ

わたしがダイガクセイのころ、ガクヒをはらうためにアルバイトをしていた。あさゴハン、ハンバーガーだった。ベンリなバシヨにショウテンがつくられていたからだ。また、それはトウジ、フケイキのせいもあってやすかった。いまかんがえると、それがなかったら、ショクバでのロウドウや、ダイガクでのガクシュウにシショウがでていたのではないかとおもう。

ニホンジン、さかなをよくたべるが、アンガイ、さかなをすばやくたべられるみせはすくない。だから、ハンバーガーだったのだろう。えきには、たちぐいそばもあるが、そばでは、あまりチョウジカンはたらない気がする。タンパクシツがあるかないかというはなしだ。

ニホンジン、セング、ガッシュウコクのこむぎをユニユウして、パンなどをつくってたべた。そのうち、ギユウニクもいれるようになった。これらをたべることがおいひとは、ジミントウタイシツ（●『アルカラカンガエル』[イカ、『ア』]ヒャクゴ）である。こめやさかななどのニホンサンのショクザイをたべ、なおかつ、ガッシュウコクサンのショクザイもたべる。ケッカ、からだのセイブンは、ニホンサンと、ガッシュウコクサンでコウセイされる。だから、こういうひとは、ガッシュウコクのひととケンカできないであろう。それが、「ニチベイドウメイ」ということばにもあらわれている。それで、どうするのかというのが、コンゴとわれるだろう。しかし、そのまえに、カンシャをわすれぬことである。

ニジュウ

ニホンのダイガクのジュンイがおちているという。ほかのくにをふくめたはなしである。それはわからぬわけではない。ニホンジンのノウリヨクがひくくなっているわけでもないだろう。しかし、ニホンジンがみつけたチケンがほかのくにとくらべて、すくなくなっているのだろう。つまり、なにがしたいのかということ、ガクモンをユニウばかりしているということである。

いまのニホンのショクリョウのジキュウリツは、よんジュッパーセントという。それとおなじように、ガクモンのジキュウリツが、おちているのではないかとおもわれる。もっといえば、どれだけダイガクをユニウしているかである。ノウサンブツのなかには、おもしろいものがある、うなぎなんかは、ほかのくにでそだてて、イッカイニホンのみずうみにはなせば、「ニホンサン」となるらしい。ガクモンは、チテキザイサンだから、それらをユニウして、「ニホンセイ」とするわけにもいかない。だから、やはり、ジキュウリツをたかめるヒツヨウがありそうなのである。

ニジュウイチ

かつおぶしは、ニホンジンのハツメイヒンという。それをけずって、おゆのなかにいれてだしをとる。そしてそのだしをつかう。これはよくあるニホンリョウリである。

しかし、モンダイなのは、だしをとったあとのかつおぶしをどうするかである。いってみれば、かつおぶしは、からだで、だしは、あじである。タブン、そのからだには、タクサンのタンパクシツがふくまれているだろう。だしは、あじだけだろう。だから、そのからだをすててはもったいないだろう。それは、ロウヒのようなきがする。うまく、だしをとったあとのかつおぶしをつかえればとおもう。

ニジュウニ

エル（ウンドウ）イコールジー（ジュウリヨク）とかいた（●『ウ』よんジュウゴ）。また、エルイコールダブリュエー（あたたかさ）わるダブリュ（シツリョウ）でもある（●『ウ』ヒャクニジュウハチ）ということは、ジーイコールダブリュエーわるダブリュとなる。

ようするに、あたたかいほど、ジュウリヨクがつよいわけである。これで、なぜ、コウセイに、ジュウリヨクがあるかセツメイできるであろう。チキュウも、なかがもえているから、おなじリユウだ。つきのジュウリヨクがチキュウとくらべてちいさいというが、それはなかのオンドがひくい、シツリョウがおおきいであろう。これらのふたつのスウチをはかれれば、みつつのスウチがだせるだろう。

ニジュウサン

エス（ソクド）イコール ディ（みちのり）わる ティ（ジカン）である。ティ（ジカン）イコールエル（ウンドウ）である（●ホンショ [イカ、ムヒョウキ] キュウ、『ウ』よんジュウ、『よ』サンジュウニ）。エルイコール ダブリュエー（あたたかさ）わるダブリュ（シツリョウ）である（●『ウ』ヒャクニジュウハチ）。これをセイリすると、エスイコール ディ わる ダブリュエー わる ダブリュとなる。

これでなにがいえるかといえば、あたたかさがひくいほど、ソクドがおおきくなる。もしくは、ソクドがおおきいほど、あたたかさは、ひくいということである。イッパンテキにはひかりが、イチバンはやいとされるが、もっとひやせれば、ソクドはあがられるかもしれない。

ニジュウよん

ミンシュシュギは、オウベイやニホンではいいものとされている。しかし、これが、シュウグセイジにかわるというシテキもある。それはカンタンである。だれもがリエキをもとめて、ミンシュシュギをやればそうなる。ゲンゼイをうたえば、フツウのひとのリエキになる。だから、ヒョウがあつまって、そのギインたちがトウセンし、ジッサイにゲンゼイして、フツウのひとがもうかり、ギインたちももうかる。キュウリョウのガクをあげるといえば、やっぱり、フツウのひとがもうかり、ギインたちももうかる。しかし、やがてセイフやケイザイがヒヘイする。だから、リエキをおもじるミンシュセイジでは、だめなのだろう。

ニジュウゴ

そとをあるけば、タクサンのくるまがはしっているのにきづく（●『ウ』ロクジュウ）。わたしは、ニホンのケイザイトウケイをみると、なぜ、そんなにくるまがはしっているかギモンがわく。わたしのおやじは、カイガイでキンムしたことがあるカイシャインだったが、ショウガイ、くるまはかわなかった。いや、チュウコシャをかっていた。そのおやじはのみにいくこともしなかった。かおうとおもえばかえたはずだが、それはしなかった。ニホンのケイザイセイチョウキをいきたひとである。そのキジュンでかんがえてみれば、タブン、いえをかうようなサラリーマンはくるまをかえないはずである。だから、ボウトウのギモンもマツトウといえるだろう。ニホンジンのショウヒがよわいなどというが、そもそもかえないのではないか。ケイザイセイサクによって、かえるキブンになって、くるまをかっていようなきがする。ショウライからのシャッキンというやつである。いまのジダイは、ひとのまねしていきることは、かえってあぶないというきがする。

ニジュウロク

キウジュウネンダイから、ニホンでは、コンピューターをつかえるひとがよくなった。それは、また、コンピューターカンレンのしごとをするひとがかせぐようになったということでもある。コンゴは、エーアイだの、ロボットなどといわれる。だから、エーアイやロボットカンレンのしごとをするひとが、かせぐだろうとヨソクできる。

だから、そのためのキョウイクをしたらどうかとおもうが、どうもそんなはなしはないようだ。せいぜい、コンピューターのプログラムのガクシュウである。それではニジュウネンイジョウおくらせている。そのこたちがおおきくなり、ケツカがでるころには、よんジュウネンテイドおくれることになる。それでいいのだろうか。

いまから、エーアイのガクシュウをはじめても、ケツカがでるまで、ジュウゴネンとかかかる。エーアイをつかえるジンザイ、つくるジンザイ、にかてるジンザイはヒツヨウであろうが、まだそういうはなしはきかない。あまりさきのことは、かんがえていないのかもしれない。

ニジュウシチ

ダイガクにいくのがいいとおもわれているふしがある。たしかにダイガクにいけば、チシキのリョウはふえるだろう。しかし、それは、キホンテキに、だれかがかんがえたことなので、たとえば、あつかうことのできるブヒンがふえたにすぎない。

そうやって、あつかうことのできるブヒンをふやすこともいいが、やっぱり、ジブンでブヒンをつくるのがダイジだろう。それが、タブンいいブヒンやである。

ニジュウハチ

ジュケンキョウソウなどという。ジュクにかようこどももいるだろう。そうやって、いいダイガクをめざす。しかし、ギモンなのが、コクサイテキなヒョウカで、サンジュウイのダイガクにはいった、ソツギョウしたでいいのかということである。

ニホンで、イチバンのダイガクでもそんなかんじである。つまり、ニホンでベンキョウのヘンサチがハチジュウあるといたって、そのテイドである。それなら、ベツのことにジカンをつかったホウがよくないか。オフロードもダイジとおもうのである。

ニジュウキュウ

カイガイでは、シュウキョウカはソンケイされるという。しかし、ニホンでは、あまりそういうはなしはきかない。なぜ、シュウキョウカがソンケイされるかということ、ドクシンで、かみにつかえるからだろう。

つまり、こういうことだ。もし、そのひとがカゾクをもっているばあい、かみのおしえ

と、かれのハイグウシャのかんがえがフィッチになったとき、どちらをとるかなやむだろう。ばあいによっては、かみのおしえをまもり、ばあいによってはハイグウシャのいうことをきく。

ようするに、シュウキョウをとるか、カゾクをとるのかというセンタクになる。カゾクをとったとしたら、シュウキョウカとしてはシツカクだろう。それなら、はじめからドクシンで、かみにつえるといい。それで、ジツサイにそうしているわけだ。そのところが、ニホンでは、かならずしもであったりするので、シュウキョウシャがソクケイされるというはなしにならないのではないか。

サンジュウ

ホウテイシキがある。そのヘンスウのブンになにかスウジをいれると、なにかのあたいがケイサンできる。そのオウヨウのようなものがヨソクである。ビールのうりあげでもなんでもいい。かぎとなるヘンスウをニューリョクして、うりあげをヨソクする。そのヨソクがただしいとすると、そのつぎのヨソクもカノウとなる。それをくりかえしていくと、ミライがわかるわけである。

そのように、ミライをコテイしたいから、キセイのようなコウドウがおこなわれるともいえる。ザンギョウキセイなどのキセイである。それをやると、ミライがよめるが、そのブン、ジユウドがなくなる。つまり、おおあたりも、おおはずれもしないわけである。だから、ジユウをもとめるひとは、キセイをきらう。ちいさいセイフのがいいというわけである。「ちいさなセイフ」とは、サイキンあまりきかないから、さきがケッコウよめているんだとおもう。

サンジュウイチ

キンユウカンワというジケンがあった。ようするに、シヘイを、インサツキをつかってふやしたのである。これをやると、ツウカのカチがさがって、ブッカがあがることがキタイされる。そうやって、すこしのブッカジョウショウをねらったわけだ。

しかし、やりすぎるとどうなるか。ツウカをニバイにふやせば、タンジュンにブッカはニバイになるし、サンバイにふやせば、ブッカはサンバイになる。そんなことがおこなわれていたわけだ。

しかし、いまはみえない。コジンキンユウシサンが、そのナンバイもあるというリユウがある。しかし、いつかはそれがヒョウメンカする。いずれ、セイフフサイが、コジンキンユウシサンをおいこすからだ。サンバイのインフレになったら、かなりくらしづらだろう。こめがゴキロで、ななセンエンというはなしである。そういうキョウフセイサクをセイフがしないように、みはっていなければならない。

サンジュウニ

わかひころは、よのなかのうらジジョウがわからなかつたりする。わたしもなんとなく、コウコウへ行って、ダイガクへいくものだとおもっていた。いところがこのダイガクにいったときかされたものだ。わたしのおやじはチュウショウキギョウのサラリーマンだったが、まあ、そんなかんじだった。そして、ベンキョウのヘンサチをあげれば、いいダイガクにいけるといふしくみをリカイした。

しかし、ジブンでおかねをはらって、ダイガクにしてみると、それは、ひとつのみかたにすぎないとわかる。なにより、コウコウに行くのにも、おかねがかかるし、ダイガクに行くにもおかねがかかる。だから、いまかんがえると、ジュケンキョウソウなんていうのは、かねをもっているひとはなしで、かねをもっていないソウは、はたらくか、はたらきながら、ガッコウへいくことになる。だから、かねがなさそうなら、ベンキョウなどせず、アルバイトをしておかねをためるといいだろう。

ジユクにいてもおかねがかかるだけだ。また、アルバイトキンシのガッコウへいってもいけない。コウコウセイのときに、ニヒヤクマンエンでもためれば、ダイガクなり、センモンガッコウにいきながら、アルバイトでガクヒをはらえるだろう。いまは、それがまっとうないきかただとおもう。

サンジュウサン

ひかりは、デンキのイッシュだとかいた (●『ウ』キョウジュウ)。デンキは、イーエル (デンキ) イコール イー (エネルギー) わるダブリユ (シツリョウ) であらわせる (イーエル イコールエル [ウンドウ]、エル イコール イー わるダブリユより。●『ウ』よんジュウゴ、『よ』サンジュウニ、『よ』ニジュウハチ)。つまり、シツリョウがレイなら、ひからないわけである。たとえば、コウセイから、ひかりがでたとする。とどいたさきのなにかが、シツリョウがレイなら、それはひからない。

ウチュウクウカンもそうかもしれない。ほしは、ひかっているが、クウカンひからないだろう。つまり、ひかるのは、うけてのモンダイだということだ。わたしたちのめには、タイヨウがひかってみえるが、それは、うけてであるわたしたちのめに、シツリョウがあるからだ。つまり、ひかりにドウチョウカノウなわけだ。

サンジュウよん

ねつもまた、うけてのモンダイとかんがえられる。ねつは、ダブリユエー (ネツ) イコール イーエル (デンキ) かけるダブリユ (シツリョウ) である (イーエル イコール ダブリユエー わるダブリユより。●『ウ』ヒヤクニジュウキョウ)。だから、ネツも、シツリョウがレイならハッセイしない。また、コウセイのちかくにあっても、シツリョウがレイなら、ネツがない (うつらない) となる。だから、ネツデンドウセイがたかひのは、

シツリョウがおおきなものとなる。わたしたちも、シツリョウがあるから、ネツをかんじるとのことだ。

サンジュウゴ

ゼンセイキのゼンハンに、ロシアでキョウサンシュギカクメイがおこり、ソヴィエトレンボウとなったという。よく、それについて、マルクスのいった、シホンカによるロウドウシャからのサクシュがあったから、それをただそうとした。というようなことをいう。たしかに、かねもちだけがユウフクでは、ロウドウシャはおもしろくない。わたしがかんがえても、ゲンコウのシホンシュギは、リジュンをもとめるから、それがたまると、ダンダンシジョウがまずしくなる（●ヒャクサンジュウゴ、『ス』ヒャクロクジュウハチ、ヒャクニジュウニ、『オ』ヒャクサンジュウ）。それはどうかとおもう。

しかしながら、ソレンは、ハチジュウネンたらずで、シュウリョウした。なにがモンダイだったか。かねもちのおかねをロウドウシャにブンパイしたら、「サクシュ」はカイショウする。そこまではいい。しかし、もうかねもちはいないのだから、もう、「サクシュ」のカイショウはできない。つまり、イッカイそのセイドをドウニュウするのはいいけれど、ずっとそれでやりつづけるのは、コンナンではないかということだ。

つまり、カイカクにはユウコウであるかもしれないけれど、そのさきがない。それがアンテイセイケンではこまるということだ。ずっとカイカクをしつづけることはコンナンだったのだろう。ただ、ハチジュウネンでおわったというケツカがでた。ニホンでも、そういうセイトウは、はやらない。さきがないからであろう。

サンジュウロク

なにかをもやすとひかりがでる。タイヨウコウハツデンをしているらしいから、たしかに、ひかりがでているんだろう。ニクガンでもカンソクできる。このもえているものと、ひかりはハンパツするカンケイかもしれない。

もえているものもヨウキョク（プラス）で、ひかりもヨウキョクということだ。ジシャクをかんがえれば、わかりやすいだろう。そうでないと、ひかりがはなたれるリユウがよくわからない。ただ、ブラックホールのばあいは、インキョク（マイナス）なのだろう。だから、ひかりがあつまる。ひかりはどこへいくか。つまるところ、インキョクのところへいくんだとおもう。

サンジュウなな

テロは、ショウキボにおこる。それがおこなわれるリユウは、なにかへのテキタイシンなどいろいろなりユウがあるだろう。タンジュンにいうと、ごくちいさなセンソウであ

る。それをおこしたひとは、ケイジサイバンをうけるというより、ころされるだろう。それが、タクサンおこるとすると、チアンがわるいとなる。だから、ふせごうとするが、なかなかむずかしいようだ。さいわい、ニホンでは、まだおこっていない。

それはわるいようであるが、メリットもある。どういうことかというと、そのブン、おおきなセンソウをしなくてすむわけだ。おおきなセンソウは、ヒガイもおおきいし、おかねもかかる。だから、ごくちいさなセンソウですめば、セイジカにとって、わるいはなしではない。しかしながら、ニホンでは、そういうニンシキがすくないかのようである。ボウエイヒをつみあげているからだ。そういうセンソウもあるんだということをおぼえておいたホウがよい。

サンジュウハチ

イシキはサイボウにあるとかいた（●『ウ』ヒャクジュウよん、『ス』ヒャクジュウよん、キュウジュウよん、キュウジュウサン、キュウジュウイチ、ハチジュウロク、よんジュウサン）。タンサイボウセイブツでもいきられるからである。

サイボウといえば、タンパクシツをフクセイするキノウがそなわっている。イデンケイである。イデンシは、カガクブッシツのあつまりだが、それにイミがあるとされる。それによって、コタイのケイシツやキノウにサがでるからである。つまり、イデンケイはジョウホウをあつかっているといえる。ジョウホウというより、グタイテキなブッシツなのだが。

そうならば、カンジョウのようなジョウホウをあつかってもおかしくないだろう。やっぱり、ものをあつかうかもしれない。おこったときには、あるブッシツをゴウセイするようなのである。そうすると、ノウよりサイボウなのかもしれない。しかし、ノウがおおきなウンドウをうけもっているから、ニンゲンはうごけるともいえる。どちらもダイジであろう。

サンジュウキュウ

エイゴで、「わたしは、マルマルをシンコウしています。」ということをして、「アイビリーブインマルマル。」という。ここでのマルマルには、「カミ」というタンゴがはいるわけだが、このブンをみると、どういうセカイカンかわかる。それは、「カミ」のなかに、「ビリーブ」があるということだ。つまり、わたしたちのイシキは、「カミ」のなかにある。というセカイカンだ。

ニホンで、そういうセカイカンをもっているひとが、どれくらいいるかわからないが、どちらかといえば、「カミ」が「ある。(いる。）」、「ない。(いない。）」といったもののようなとらえかたをするのではないか。もしそうだとすると、「アイビリーブ マルマル アウト オブミー。」となるだろう。それだと、かなりセカイカンはちがうだろう。

また、ニホンでは、「カミ」がおおいから、ジブンのガイメンにテイイさせるとおもわれ

る。ある「カミ」は、「エー」といい、また、ベツの「カミ」は、「ビー」といったとする。そうすると、そこにトウイツテキなケンカイをもつことは、むずかしくなる。だから、タンジュンに、ある「カミ」は、「シー」といった。と、そのままりバーブ（エコー）するサホウが、もっともエネルギーをつかわないから、ダイタスウにサイヨウされそう。そういうサホウをレンゾクすると、「だれが、『バツバツ』といった。」などと、デンブンケイのコミュニケーションをとるタイドとなるだろう。だから、ニホンジン、カガクをしづらいといえる。だれかのいったことを、そのままにするからである。イッポウ、オウベイでは、かれらが、「カミ」のなかにいるわけだから、「カミ」をさがそうとするかもしれない。「カミ」とはなにかとどうかもしれない。だから、はじめはシンガクでも、シゼンカガクへとハッテンするわけである。おおくのニホンジンなら、あの「カミ」がそういっていたから、そういうことにしておこうとなるだろう。そこが、ギジュツリョクのサになるとおもう。

よんジュウ

いまは、ハウリツのアンをコッカイギンがギロンするが、コンピューターネットワークをつかって、コクミンにやらせたらどうか。ハウアンのハツギも、タショウのコッカイギンがやってもいいが、コクミンからハツギするわけだ。ようするに、コジンがアップロードして、ギロンするのである。

サイケツのばあいは、サンセイかハンタイをデンシコクミントウヒョウすればいい。イーメールで、マルガツバツニチのゴジまでにトウヒョウしてください。とやればいいわけだ。ギロンヨウのケイジバンのようなしくみもヒツヨウだろう。これらをひるまにやると（ひるまにやってもいいが）、フツウのロウドウシャはおきざりになってしまうので、ゴゴシチジイコウなどに、ギロンするわけである。

ムりにギロンしなくてもいいが、テキトウにサイケツして、ハウアンなどをきめる。テレビなんかをみているより、このハウが、シャカイのことをかんがえるので、まともであろう。ニジカンくらいでもいい。これなら、かつてはあったといわれる、チョコセツミンシュセイができる。ケイヒもやすくあがるのではないか。

よんジュウイチ

ジブンでしたしごとは、ジブンのシサンになる。だれかにたのまれたしごとや、カイシャのしごとは、ジブンのシサンにはならない。ただ、かわりにおかねをもらえる。だから、カイシャをはなれてしまったロウドウシャは、シサンがなくなってしまう。

それだと、あたらしくなにかをやるのもタイヘンだから、てあついコヨウでまもる。しかし、それもあやしくなっている。ほかのひとに、ジブンのシサンをサユウされたくないのなら、ジブンでしごとをすればよい。しっかりやれば、ドンドンシサンがふえるであろう。パソコンのソフトウェアのように、コピーをうれば、もとではへらない。

よんジュウニ

イーエル（デンキ）イコールダブリュエー（あたたかさ）わるダブリュ（シツリョウ）である（●『ウ』ヒャクニジュウキュウ）。このうちみえるのは、ダブリュであろう。チャワンがそこにあればみえる。これは、ひかりがあるためである。ひかりがなければ、シツリョウはカンサツできない。まわりがひかっているか、そのチャワンがひかっているか（●サン）は、さておき、ひかっているか（めにみえれば）、シツリョウは、カンサツカノウだ（ただ、ケイサンではかることはカノウであろう。）。だから、そのひかりをシツリョウとカテイする。

そうすると、イーエル イコール ダブリュエー わるエルアイ（ひかり）である。とはいっても、ものはものというかんがえかたがつよいので、イーエルイコール ダブリュエー わる エム（モノ）や、イーエル イコールダブリュエー わる カッコエム たす エルアイ カッコなどとしたホウがいいかもしれない。

しかし、デンキというゲンショウメンでは、ひかりとってしまってもよいのではないか。しかし、モンダイもある。それは、タイヨウのデンキリョウ（ダブリュエーわるエルアイ。）と、ライターでつけたひのデンキリョウが、ヒリツがおなじだとすると、おなじかずになってしまう。つまり、どちらも、「イチ」のカノウセイがある。そうすると、タブン、ジッサイテキなハツデンリョウは、タイヨウのホウがおおきいはずだ。それをどうかんがえるかというモンダイがある。

それを、おおきいデンキ「イーエル エル」とちいさいデンキ「イーエルエス」とわけてかんがえれば、カイケツする。しかし、それなら、デンキのダイショウについてのギロンがヒツヨウであろう。タンジュンなのは、なにかのチョッケイと、たとえば、あたたかさはかるわけである。だから、イーエルイコール ダブリュアイ（チョッケイ）かける ダブリュエー わるエルアイとなるわけである。

よんジュウサン

さきのシキでは（●よんジュウニ）、イーエル（デンキ）イコールダブリュエー（あたたかさ）わるダブリュ（シツリョウ）のウヘンのダブリュを、エルアイ（ひかり）わるダブリュアイ（チョッケイ）にさしかえた。このシキがただしいとすると、ダブリュイコール エルアイ わる ダブリュアイだ。

つまり、ひかりがレイだとすると、シツリョウもレイになる。また、ダブリュアイがレイでも、ダブリュはレイになる。どういうことかということ、ひかりがないところには、なにもないということだ。「ブラックホール」が、ひかりをすいこんでいるなら、それは、シツリョウがあるということになる。だから、それがなにかをすいこんだとしたら、ひかりがあるはずである。だから、なにかがたまっていけば、またもえるか、インセキのようになるだろう。

また、おおきさのないもののシツリョウはレイということである。だから、あるものをちいさくするようなアツリョクをかければ、それは、とてつもなくテイオンになるだけで、なくなりはない。ギャクに、ひろげれば（オンドをたかくすれば）、どこまでもコウオンになる。だから、ウチュウは、ビッグバンでこわれてしまうというより、オンドがあがりつづけるかぎり、ひろがるだろう。シキをいじると、ダブリュアイコールエルアイわるダブリュだから、ひかりがおおきくなるほど、ウチュウはひろがることになる。シツリョウとひかりのおおきさがケイサンできれば、ウチュウのおおきさではかれるであろう。

よんジュウよん

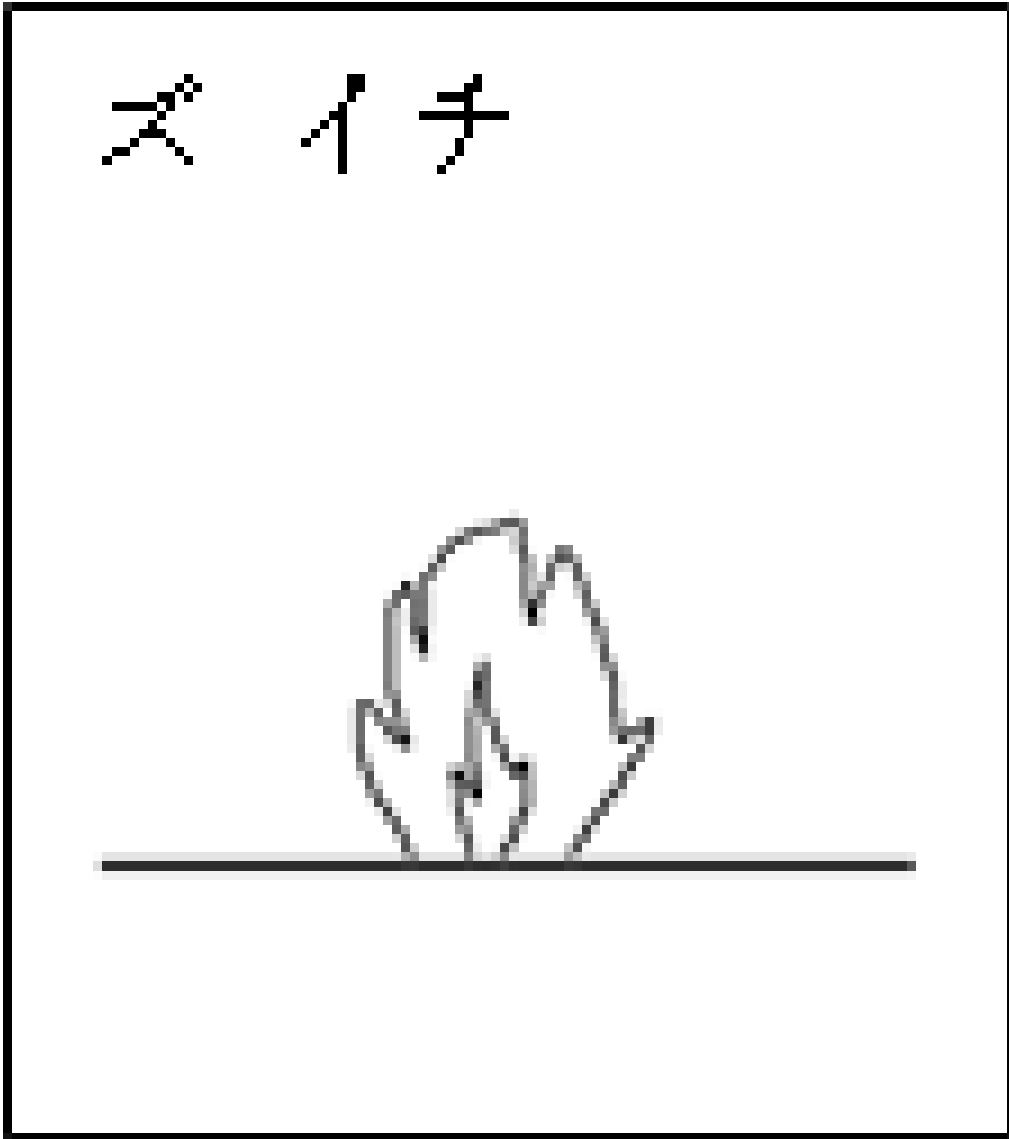
イーエル（デンキ）イコールダブリュエー（あたたかさ）わるダブリュ（シツリョウ）である（●『ウ』ヒャクニジュウキュウ）。これをいじると、ダブリュかけるイーエルイコールダブリュエーになる。つまり、あたたかさとは、シツリョウとデンキによることになる。シツリョウを、さきのケイサンシキをつかって、ダブリュイコールエルアイ（ひかり）わるダブリュアイ（チョッケイ）（●よんジュウニ）のチョッケイを、アツリョクをかけ、ちいさくしてやれば、シツリョウがおおきくなる。そうすると、さきのシキでは、ギャクにあたたかくなる。これはなぜだろう。

タブン、アツリョクをかけたでどころのものも、ケイサンシキにはいってしまうからだとおもわれる。だから、そのもののオンドはひくくなくても、アツリョクをかけたもとは、オンドがあがる。そういうことだとおもう。だから、ものにアツリョクをかけて、あたたかさをさげようとおもっても、ケツカテキには、よりあたたかくなってしまふことがかんがえられる。うまく、ひかりやデンキをおさえられればいいが、そういうむずかしいメンはあるとおもう。

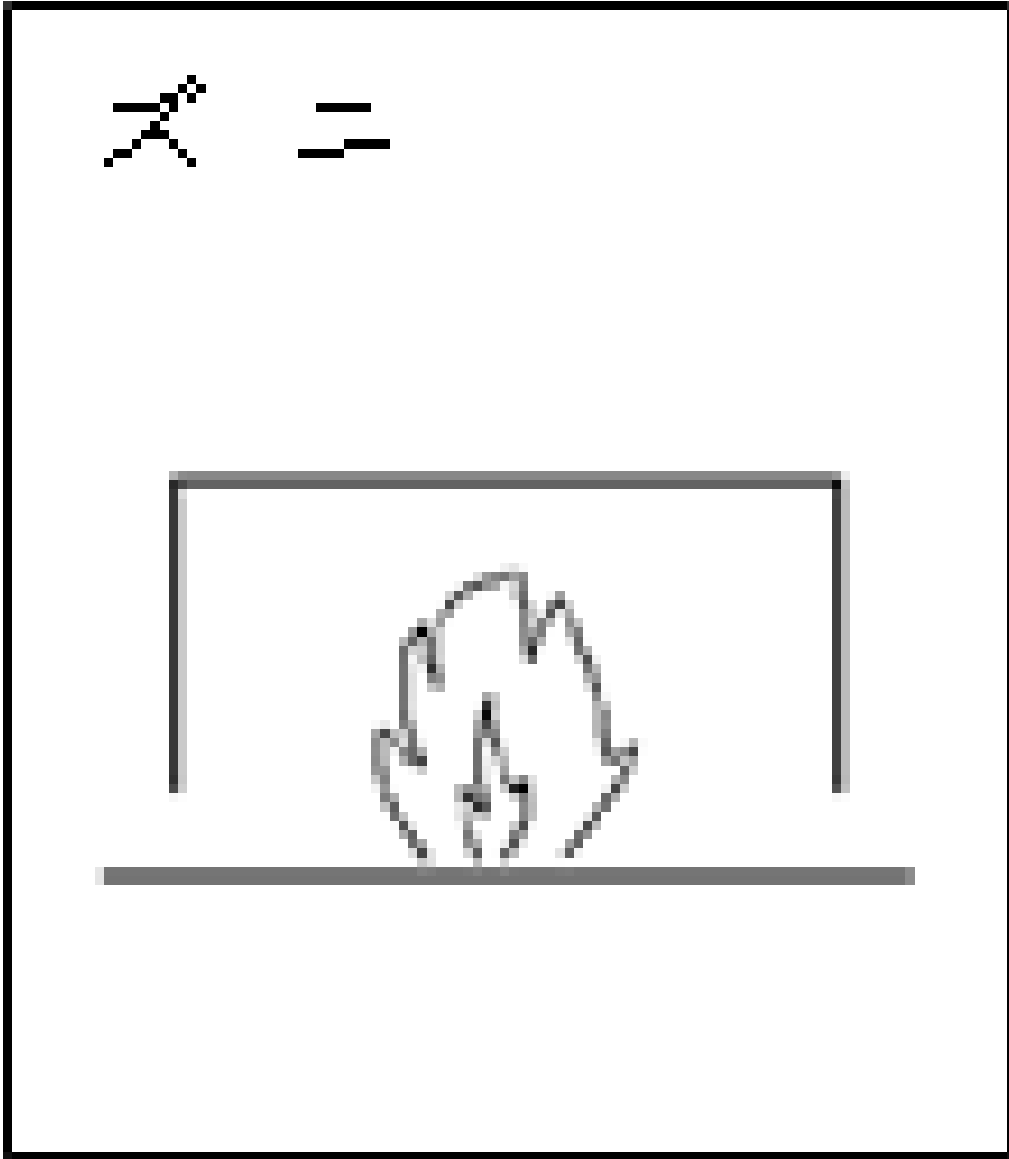
よんジュウゴ

ダブリュ（シツリョウ）イコールエルアイ（ひかり）わるダブリュアイ（おおきさ）である（●よんジュウニ）。また、ダブリュかけるイーエル（デンキ）イコールダブリュエー（あたたかさ）である（●サンジュウよん）。

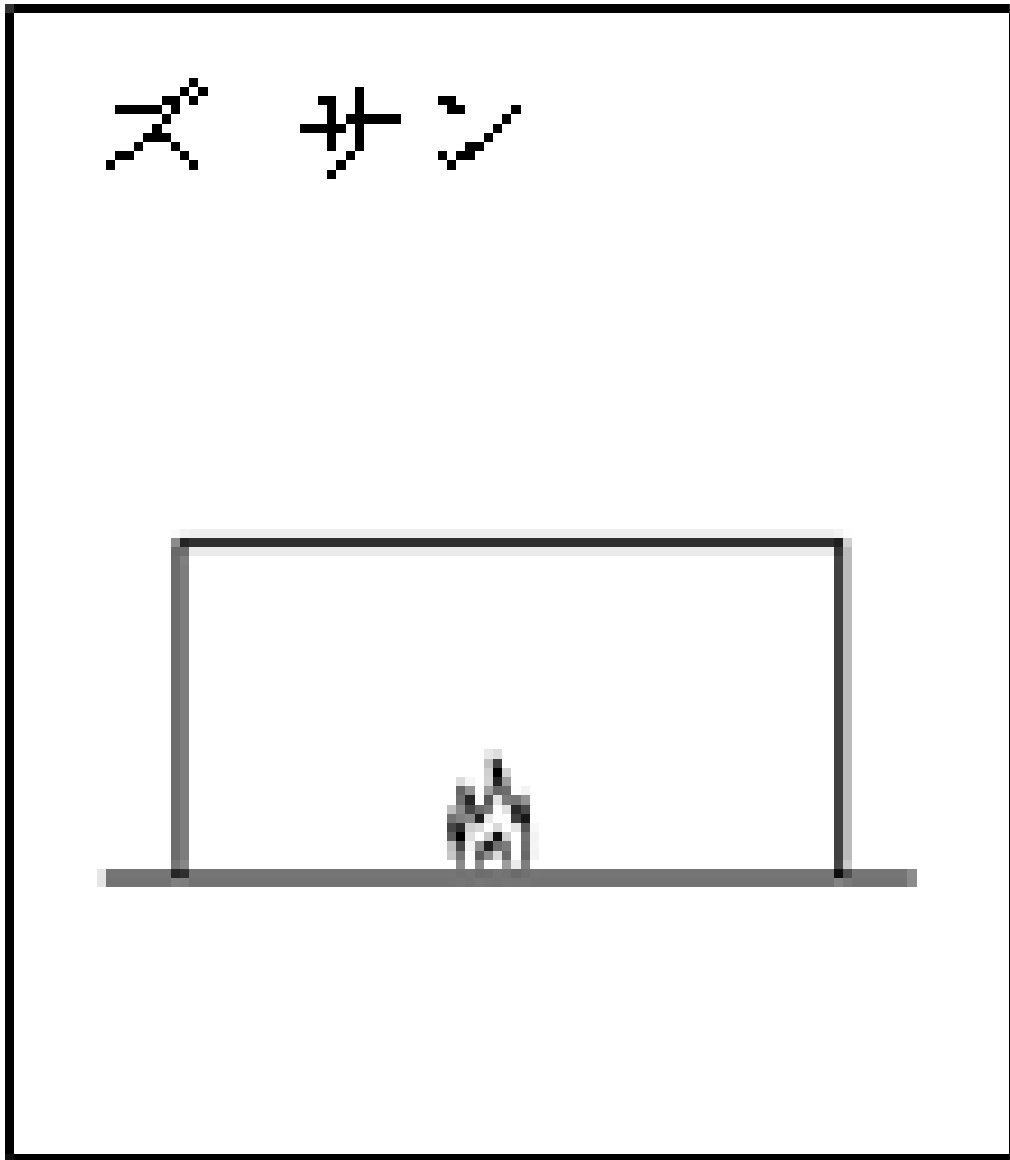
ものにアツリョクをかけて、ダブリュアイをへらしたとする。そうすれば、あたたかさがへるはずだが、ほかのヨウソもかわらないと、あたたかさはちいさくならない（●よんジュウよん）。ということは、このようにソウサしようとするばあいには、エルアイかイーエルをヘンカさせるヒツヨウがある。そのイーエルのはなしである。ギャクに、あるもののオンドをたかめようとするれば、ダブリュアイにタイして、エルアイがおおきくなる。もやしてみるばあいをかんがえればいい。ひかりがでるし、いくらかキタイになって、ものがおおきくなる。それをとめるのには、どうしたらいいか（ズイチ）。



z 7 -01.png



z 7 -02.png



z 7-03.png

みずをかけるホウホウもあるが、ひかりをシャヘイするものをかぶせればよい（ズニ、ズサン）。

そうすると、ダブリュアイもおおきくならないし、エルアイもおおきくならない。エルアイはでつづけるだろうが、リョウイキのゲンテイがあるから、やがてひかりはリンカイにタツするだろう。そのあと、ひがよわまるかどうかは、ケイケンであるとおもうが、やがてひがよわまる（タバコなどのばあいだ）。

そうすると、エルアイがおおきく、したがってダブリュがおおきくなる（ダブリュアイがゲンテイされているからだ。そうすると、ゲンテイのそとへちからがはたらくとおもう。）そうすると、そのゲンテイのなかにあったベツのものが、ソウタイテキにかかるくな

ることになる。

だから、ひかりがリンカイにタツするようなばあいには、そのリョウイキナイにあるベツのものがうくカノウセイがあるし、ものをとばすのがヨウイになろう。つまり、チキュウジョウでショウゴをリンカイととらえれば、ゴゴのホウが、なにかをとぼしたりするのが、カンタンになる。とりのはね（ウモウ）も、くもりやあめのひよりも、はれのひのホウがとびやすいとなる。

よんジュウロク

エイゴは、アルファベットをくみかえてつくられる。クール（シーオーオーエルを、クーラー（シーオーオーエリーアール）と、ハッテンさせることができる。また、アルファベットも、サンジュウモジにもみたくない。

チュウゴクゴ（カンブン）でいうと、レイを、レイボウキと、イチモジのところを、ニモジふやして、サンモジにしなければならない。レスポンシブルオートマティッククーラーだったら、センタクテキジドウレイボウキとカンジをいくつもつかう。

クールをクーラーといえるのに、すずしいからレイボウキと、タクサンのモジをあつかうことは、コウリツテキでない。コウリツテキにかんがえたら、リョウフウキやレイといえよとなる。そここのところが、カンゴとエイゴのリョウホウつかうニホンジンのカダイだろう。こうやって、かなであれば、エイゴのようにつかえるが、やっぱりブンカテキなモンダイもある。

よんジュウなな

「レキシ」というのはなんだろう。くちでつたえられるレキシもあろうが、やはり、ホンなのだろう。キロクになれば、そのレキシはないということである。たまに、シンのシコウテイのようなレキシをほうむりさるひともいる。ベツにくになどのレキシにかぎらない。

ギジュツにしたって、レキシだろう。いまは、ケツコウなことがコンピューターサーバーにキロクされている。それをこわせば、そのレキシはおわりであろう。レキシにくわしいひとも、レキシにくわしくないひともいる。ジブンでなにかしごとをしたかったら、レキシからキヨリをおくことである。テレビからも、はなれたホウがいいだろう。そして、ジブンのレキシをかくといい。

よんジュウハチ

エーアイはかしこいといっても、それは、ロンリである。つまり、ゲンゴやフゴウにならないものは、あつかえない。それにタイして、ニンゲンには、みることができて、ヒ

ゲンゴジョウホウがつかえて、チョッカンがある。だから、まだニンゲンはまけないだろうとおもう。

よんジュウキュウ

ニホンはこちらから、コウレイカとインフレとのたたかいでタイヘンである。ショウライにそなえて、チョッキンをするべきというはなしもある。だから、あまりゼイタクはできない。

しかし、ニホンジンのあるテイドは、ジミントウタイシツ（●ジュウキュウ、『ア』ヒャクゴ）である。ニホンサンのたべものとガッシュウコクサンのたべものをたべるひとのことである。だから、ガッシュウコクのひとのまねをしやすい。

しかし、ガッシュウコクジンとおなじようにショウヒしたら、ダメである。たしかに、ガッシュウコクのひとに、あこがれることもあるだろう。だが、チョッキンをしなければだめだし、はたらきぶりが、ニホンジンよりいいという。だから、いまはまねてはだめなのだ。はたらきぶりをまねるのはいいだろう。

ゴジュウ

イシキは、エル（ウンドウ）である（●『ウ』ヒャクキュウジュウキュウ、『ウ』ヒャクゴジュウゴ、『ウ』ヒャクニジュウイチ、『ウ』ヒャクジュウよん、『ス』よんジュウイチ）。また、イーエル（デンキ）でもある（●エルイコールイーエルより、『ウ』よんジュウゴ）。だから、そとからカンサツカノウである（いまのところはできないかもしれないが）。デンキシンゴウをみるわけである。それなら、ニンゲンには、うちはないのかとなる。しかし、プライベートなシコウもあるだろう。しりたがりなら、あるひとのイシキをしりたがるだろうが、それはメイワクであろう。しかし、そんなものだ。そうやって、うちとそとにわけると、カンサツカノウになるわけだ（キャッカンがカノウになるから）。ホンネとたてまえというニホンジンなら、まあ、そういうのはあろう。しかし、おもてうらのないひともあるだろう。カンサツしても、しかたがないが、「イシキ」はなくはないといえそうだ。

ひかりがあるところにはジュウリョクがある。シドクバン
エイゾウ

ニセンジュウキュウネンジュウニガツニジュウハチニチ

ニセンニジュウイチネンクガツヨウカ

iii toga db009-2s

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオ
ドシーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラカンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキュウネン

『ウンドウはすべてエレクトリック。』ニセンジュウキュウネン

『エルガク～ひとりブツリガクのチョウセン』ニセンジュウキュウ

『ものみダイからのケイザイガク』ニセンジュウキュウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニューできます。

<http://eizo09.com>

『ひかりがあるところにはジュウリョクがある。』シドクバン

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
